

象ぞう嵌がん装そう大た刀ち

刀解

角体

鹿屋で発見された「象嵌装大刀」を
より深く、もっと身近に。

親

しん

深

ZOGANSO
象嵌装大刀PRプロジェクト

書

ヒメとヒコ

ある王の物語

"HIME to HIKO" The story of an ancient king.



「ヒメとヒコ」と象嵌装大刀との出会い。
そして新たな物語の誕生へ。

そのことに着想したのが「ヒメとヒコ」の生みの親であり、舞台の演出もされている鹿屋市文化会館館長でもある松永太郎さん。「鹿屋に生まれ育った自分にとって、若い頃はあまり地元文化や歴史に興味が持てませんでした。」そして高校卒業と同時に東京へ。その後海外留学、沖縄移住の後、鹿屋へ帰郷。「外に出て、鹿屋に戻ってきた時に、



ミュージカルを楽しみながらも、大隅の歴史や文化に触れることができる「ヒメとヒコ」。観ればきつと、自分たちが住んでいる場所のことを、もっと好きになれるはず。ちなみにこの「ヒメとヒコ」メンバーの合言葉は「大隅大好き！」。舞台を通じて、高校生達の地元を愛する気持ちが伝わってくるようです。

初めて鹿屋にまつわる歴史や文化の素晴らしさに気付くことができました。「その思いが生み出した「ヒメとヒコ」には、鹿屋で発掘された貴重な歴史的遺物が多く取り入れられています。『象嵌装大刀』という大刀の発見にまつわるエピソードなどは、歴史的背景を考えると、たいへん興味深く、今回台本を書き変えたほどです。」



高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」を知っていますか？鹿屋の高校生を中心に構成されたこのミュージカルは、高校生とは思えない演技や歌、ダンスのレベルの高さが評判となり、県内各地で公演されている、プロ顔負けのミュージカルです。その「ヒメとヒコ」の舞台となっているのは、15000年前の大隅と奄美。これは実際に大隅の歴史や文化財などの資料を基に、ミュージカルとして創作されたものです。実は大隅は県内でも歴史的にも重要な史跡や遺物が、数多く発見されている場所なのです。

舞台は
1500年前の大隅。
プロ顔負けの
高校生ミュージカル。



劇中には象嵌装大刀が取り入れられ、印象的なシーンで使われている。

この写真は、象嵌装大刀のCT写真です。平成18年に鹿児島県埋蔵文化財センターでX線のレントゲン写真によって、象嵌技法の存在については確認されていましたが、詳細は不明のままでした。その後、平成22年に九州国立博物館でCT画像を撮影したところ、詳細な文様を確認することができました。心葉文はハート形をしています。実は、中国の空想上の生物である鳳凰が羽を広げて休んでいる形を表現しています。



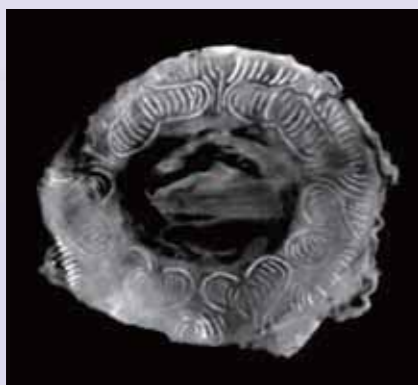
象嵌装大刀のハバキ部分 (CTスキャン)

この刀は、象嵌装大刀といって、象嵌技法が施されている大きな刀という意味で、鹿屋市吾平町の中尾地下式横穴墓群で発見された今から約1500年前の古墳時代の刀です。象嵌とは、「象」がかたどるという意味を持ち、「嵌」がはめるといいう意味を持っていることから、異なる材質同士を嵌め込む技法のことです。この刀には鉄に銀が嵌め込んであります。刀のツバとハバキに心葉文、ハバキの上部と柄頭の金具に2重半円文が施されています。鹿児島県では象嵌技法が施された出土品としては初めての発見となりました。また、ツバに心葉文を持つ刀は全国でも16例目、九州では4例目と大変貴重な出土品です。しかし、出土時はこのようにサビに覆われていて、実はあまり注目されていませんでした。



発掘当時の象嵌装大刀

象嵌装大刀の全てが解る！



象嵌装大刀のツバ部分 (CTスキャン)

今蘇る、1500年前の輝き。忠実に再現された象嵌装大刀。再現レプリカは、材質や大きさだけでなく、1500年前の人々の製作方法まで再現して作られたものです。(詳しくは7ページの「象嵌装大刀に命を吹き込む匠の世界」をご覧ください) 象嵌装大刀を持っていた人については、実はまだ詳しくはわかっていません。象嵌装大刀は、鹿屋で作られたものではなく、朝鮮半島からの渡来品か大和地方で製作された物が、中央政権との交流により与えられたものであると考えられています。



これは実物の象嵌装大刀の写真です。奈良県の(財)元興寺文化財研究所に委託をし、ツバとハバキ部分のサビの除去を行い、1500年前の象嵌技法を確認できるようになりました。



ツバ部分にほどこされたハート形の心葉文が特徴



発掘調査当時の様子

中尾地下式横穴墓群は、鹿屋市吾平町上名にあり、今から約1500年前の古墳時代の遺跡です。象嵌装大刀は出土した土器などから6世紀末頃のもものとされて、中央政権では聖徳太子が推古天皇の摂政となり活躍している時代です。

中尾地下式横穴墓群

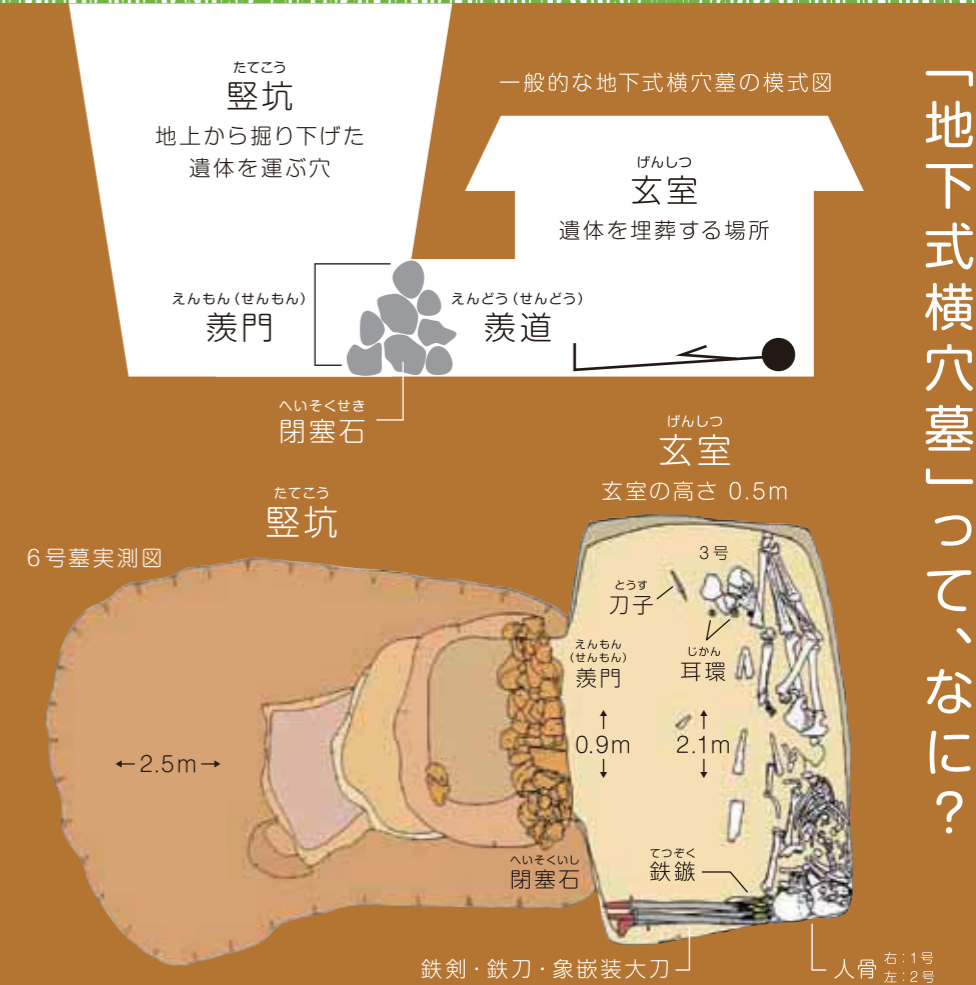
象嵌装大刀が発見された、注目の遺跡！



地下式横穴墓群



中尾地下式横穴墓の6号墓から出土した象嵌装大刀や鉄剣、鉄鏃(てつぞく)、耳環(じかん)〈耳に付けるアクセサリー〉などは「象嵌装大刀外中尾6号地下式横穴墓出土金属器」として鹿屋市の指定文化財となっています。



「地下式横穴墓」って、なに？

中尾地下式横穴墓群で6番目に発見された6号墓では、最初に1体埋葬したあと2回追加で埋葬したことが豎坑部分の土の堆積状況などからわかっています。玄室内では、人骨が発見されることもあり、中尾地下式横穴墓群では合計7体の人骨が見つっています。その内1体は残存状況がよく、男性で身長159.8cmであったことがわかっています。



人骨 右:1号 左:2号

中尾地下式横穴墓で発掘された象嵌装大刀は6世紀頃に、当時の政権の中枢と考えられている近畿地方で作られたものが、大隅へ送られたのではないかと考えられています。当時の鉄刀では珍しく、刀のツバの部分に象嵌がほどこされており、これは全国でも十数件ほどしか発見されていません。おそらく、大隅にいた身分の高い方への贈り物だと考えられます。

品を作る際には、各パーツをそれぞれ専門の職人に振り分けて作ります。今回は「鑄造」「鍛金」「彫金」の3つの行程に分けており、それぞれの職人が、できるだけ当時の製作技法をもちいながら、細部にいたるまで再現します。実際の出土品をX線などの科学分析を行い、実測図を描き起こし、部品が破損して解らない部分などは、同時代の類似した物を参考にしながら作り上げていきます。



(財)元興寺文化財研究所 研究所
金属器保存研究室 土器修復室
室長 塚本 敏夫 氏

象嵌装大刀を見ると、当時の技術や人々の美意識などが、解ってくるのではないのでしょうか？

文化財研究のプロフェッショナル「元興寺文化財研究所」による象嵌装大刀のレプリカ製作に密着！



細部に至るまで緻密に再現された象嵌装大刀のレプリカ。その裏には、専門の職人たちの「匠」の技術がありました。

中尾地下式横穴墓群で見つかった象嵌装大刀。その後のCTスキャンなどの科学調査により、たいへん貴重な大刀であることが解りました。象嵌装大刀がいったいどのような大刀だったのかを、現代に蘇らせるべく再現レプリカの製作を依頼。そこには、現代の名工による匠の技術が凝縮されていました。

木工 | 木工藝もりち 森地正和 氏

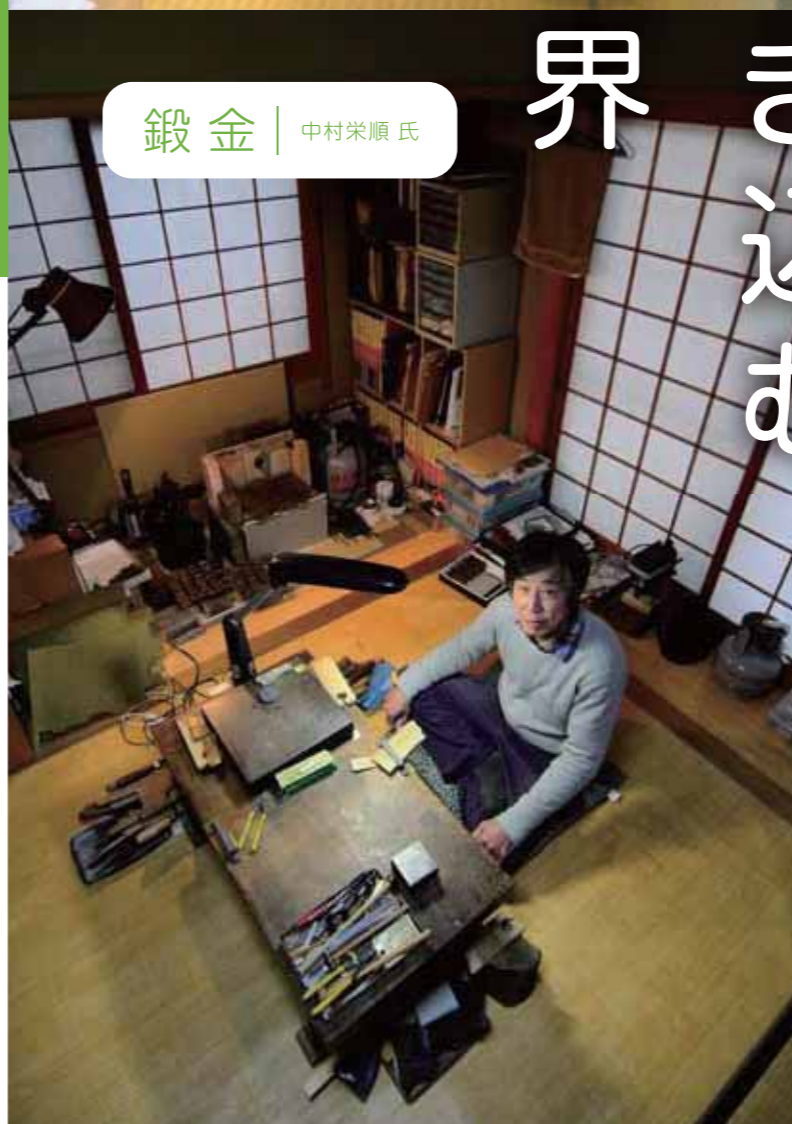


鑄造 | 和銅寛 小泉武寛 氏



匠の世界 命を吹き込む 象嵌装大刀に

鍛金 | 中村栄順 氏



彫金 | 小林彫金工芸 小林正雄 氏



象嵌装大刀を蘇らせた、匠の技に迫る

たんきん
鍛金

金属工芸に用いられる技法の1つで、金属に熱を加え槌(金槌)で叩き加工する技法。金属に熱を加えると伸び縮みする特性を活かし、形をつくっていきます。

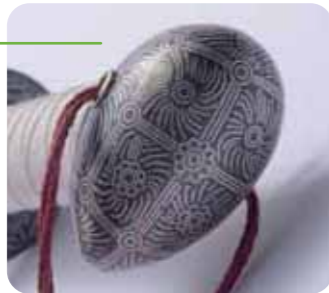


もっこう
木工

かんな、のこぎり、のみ、やすりなどを使って、木材を様々な形に加工します。金属加工に比べ、より繊細な形状を表現することができます。

ちゅうそう
鑄造

金属材料(鉄・アルミ・銅など)を融点よりも高い温度で熱して液体(熔融金属)にし、型(鋳型)に流し込み、冷やして目的の形状に固める加工方法です。



ちようきん
彫金

鑄造または鍛造(たんぞう)された金属器の表面に、文様を彫ったり、透かしたり、他の金属を嵌(は)めて装飾したりする金工の加飾技法です。





軽石製組合式石棺



短甲・衝角付冑

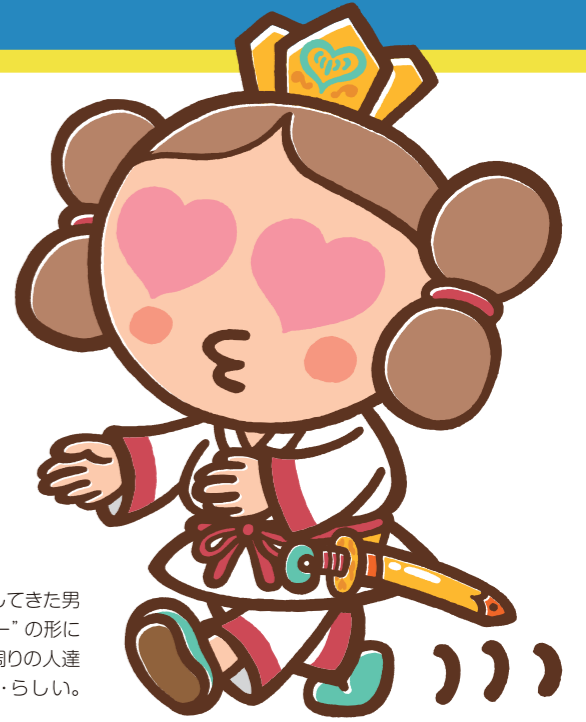


勾玉・管玉



絵画土器

ラブヒコと行こう！ 鹿屋の歴史 タイムスリップ！



「ラブヒコ」

鹿屋に残されている史跡や遺物などを子ども達に紹介するために、古墳時代からタイムスリップしてきた男の子。象嵌装大刀を持ち目の形は象嵌装大刀の文様の特徴でもあるハート形に、また口は“チュー”の形になっています。人を見かけると“ハグ”を求めて行きます。人が大好きで、誰彼構わずハグをし、周りの人達に愛を振りまき幸せをもたらします。ラブヒコに抱きつかれた人には幸運が訪れる・・・らしい。

「古墳時代」



古墳時代は、今から約1700年前から1400年前までで、古墳が作られ始めてから、作られなくなるまでの時代です。鹿屋市にも岡崎古墳群や上小原古墳群など、一般的な古墳も存在しています。

古墳時代の出土品は、象嵌装大刀の外に西祇川町の祇川地下式横穴墓群から出土した県指定文化財の「短甲・衝角付冑」や吾平町の宮ノ上地下式横穴墓群出土の「軽石製組合式石棺」、串良町岡崎古墳群出土の勾玉・管玉などのお墓からの出土品、吾平町の名主原遺跡出土の県内初の人間を表した絵が描かれた「絵画土器」などがあり、鹿児島県を代表するものが多数見つかっています。

「縄文時代」



縄文時代は今から約13000年前から23000年前までとされています。縄文時代は、まだ鹿屋では米作りは行っておらず、人々は狩猟を行い、どんぶりなどを食べていたと考えられています。縄文式土器は、縄目の模様が入っていることからその名が付けられました。貝殻を使って模様を付けている土器が多く見られます。



縄文式土器



土器の出土状況

「弥生時代」



王子遺跡の復元住居跡



弥生式土器

弥生時代は今から約2300年前から1700年前までとされています。弥生時代になると、縄文時代の終わり頃に北部九州に伝わった米作りを行うようになり、人々はムラを形成し、定住化していたとされています。鹿屋市王子町の王子遺跡からは、たくさんの竪穴住居跡が見つかっています。

弥生式土器は、縄文式土器より丈夫で大きく、表面の文様をあまりつけていません。



「神話時代」



吾平山上陵

吾平山上陵は、日本の初代天皇「神武天皇」の父君「うがやふきあへすのみこと」と母君「たまよりひめ」のお墓とされていて、全国的にも珍しい岩の洞窟を陵墓としています。

タイムスリップから わかること

鹿屋市は、古くは神話時代の歴史遺産があり、縄文時代・弥生時代・古墳時代とずっと人々が生活していた跡が数多く残っていて、悠久の歴史を感じることができるまちです。象嵌装大刀は「歴史のまち鹿屋」の礎を築きあげてきた古代人たちが、今を生きる私たちに郷土の歴史を再認識させるために長い間発見されるまで待っていたのかもしれないね。

鹿屋の歴史を調べると、面白いことがいっぱい!!



施設の紹介



王子遺跡資料館

鹿屋市北田町11110番地1
TEL 0994-31-1167
開館時間 午前9時～午後5時
閉館日 12月29日～1月3日
入館料 無料



鹿屋市串良歴史民俗資料室

鹿屋市串良町有里507番地1
TEL 0994-31-1167
開館時間 午前9時～午後4時30分
閉館日 土・日・祝日及び12月29日～1月3日
入館料 無料



鹿屋市輝北歴史民俗資料館

鹿屋市輝北町上百引2635番地
TEL 0994-31-1167
開館時間 午前9時～午後4時30分
閉館日 土・日・祝日及び12月29日～1月3日
入館料 無料

鹿屋の歴史、文化財についてのお問い合わせ

鹿屋市教育委員会 文化財センター
TEL 0994-31-1167 FAX 0994-63-3400
ホームページ <http://www.e-kanoya.net/>
E-mail bunkazai@e-kanoya.net

制作：鹿屋市教育委員会 発行：平成24年3月

象嵌装大刀

解

体

親

しん

深

書